

社訓の教え

大津 隆文

今年に入つてトヨタ関連のニュースを何回も目にした。生産台数三年連続世界一、社長交代、豊田章一郎氏逝去等々。その中で次の豊田綱領を知った。

- 一、上下一致、至誠業務に服し、産業報国の実を挙げべし
- 一、研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 一、華美を戒め、質実剛健たるべし
- 一、温情友愛の精神を発揮し、家庭的美風を作興すべし
- 一、神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし

これは豊田自動織機の創始者豊田佐吉翁の考え方を整理し、1935年に成文化されたもので、現在もトヨタ全従業員の行動指針になっているという。

私は大いに共感、感動すら覚えた。佐吉翁の考えは、現在の感覚では、個人の生き方にまで及び古くさいかも知れないが、基本的には真つ当と思う。

トヨタに限らずこうした社訓の多くは、創業時に制定され今日まで唱え続けられている。「所期奉公」「三方よし」「浮利に趨らず」等は私達も耳にするところだ。

現代経済社会のベースである資本主義は、ともすれば過度な利益追求に走り、人を金の亡者にしかねないリスクを内包している。これを制御するため、競争ルールの設定等種々工夫がなされてきた。最近では、株主第一主義を見直し、従業員、顧客、取引先、地域社会等の幅広い関係者を重視することや、さらにはESG（環境、社会、ガバナンス）を尊重する経営の重要性が叫ばれている。

振返れば社訓にはこうした精神が既に盛り込まれていたのではないか。日本の伝統的価値観には剥き出しの金儲け主義を良しとしない良識があったのではないか。誇らしく思うと同時に、是非こうした社訓の教えを実践してほしい。

この点残念だったのは昨年12月の公正取引委員会の発表。下請け企業などとの間で、原燃料費等のコスト上昇分を取引価格に反映する協議に応じなかったとして、13社・団体の名前が公表されたが、その中に豊田自動織機、デンソーというトヨタグループの中核企業が含まれていた。